



しずく 通信

もくじ

01 夏の号のはじめに（はるまき）

02 感情浴会の記録 第36回～第38回

03 こはぜのこと（栞）

04 寄稿 耳で読む怪談（こはぜ）

05 寄稿 夏の終わりの映画（ロク）

06 夏の選書

07 次の会

夏の号のはじめに

(はるまき)

冷やし中華のたれを、今年は自分で作ってみました。酢を入れすぎて、家族にむせられちゃいました。

七月で、しずく通信は創刊から三年になります。十三号目です。創刊号を読み返したら、最後に「次の号は十月」と書いてあって、そのとおりに十三回続いたんだなあと思うと、ちょっと不思議な気持ちです。

五月からは、こはぜが加わりました。朗読の好きな大学生です。紹介は、朗読の回をいっしょに進めた栞に書いてもらいました。

感情浴会の記録

回	テーマ	作品	進行／ 記録	その夜のひとこと
第36回 (四月)	やり直したくなり	『ブラッシュアップライフ』(テレビドラマ・バカリズム脚本)	はるまき／草餅	会のあと、しばらく話していなかった地元の友だちに連絡した(草餅)
第37回 (五月)	ほどけたい	宇多田ヒカル『BADモード』	オト／栞	二曲目から、体の向きが変わる(オト)

回	テーマ	作品	進行／ 記録	その夜のひとこと
第38回 (六月)	寂しさに 浸りたい	夏目漱石『夢十夜』(朗 読で聴く)	栞／ こは ぜ	縁側にしばらく座ってい るような夜でした(こは ぜ)

四月は、三月まで放送されていたドラマを、はるまきが終わったらすぐやりたいと言って持ってきました。亡くなった女性が、自分の人生をもう一度やり直す話です。主人公が大人の頭のまま小学生に戻って授業を受ける場面で、はるまきはずっと笑っていました。

五月は、オトの進行で一枚を通して聴く回。こはぜの最初の会でした。オトからの付け加えは、部屋の明かりを落とすこと。終わり近くの長い曲が遠ざかっていくのを、誰も止めようとしなかった、と栞の記録にあります。

六月は、十ある夢のうち三つを、画面を消して、部屋を暗くして聴きました。こはぜは雨戸を閉めて、柱時計の音だけがする部屋で聴いていたそうです。入って二回目の会で、初めての記録でした。

こはぜのこと

(栞)

最初のあいさつの声が、思っていたより落ち着いていて、画面の向こうが少し静かになったのを覚えています。

こはぜは、朗読や音声の作品を記録してくれる大学生です。古い物語の朗読と、ラジオドラマが好きで、倍速では聴かない主義。五月の音楽の回で、歌声が近く

なったり遠くなったりするのが、雨戸越しに誰かの声を聴いているようだった、と話していて、初めての会とは思えないことばだと思いました。

朗読の回を、これから一緒に作っていただけたらうれしいです。

寄稿 耳で読む怪談

(こはぜ)

一行目の声が、思っていたよりずっと明るかったのです。それが、いちばん怖かった。

怪談は、目で読むより、耳で聴くほうが怖いとぼくは思っています。目で読むときは、怖い場面が来そうになると、少し先の行をちらりと見てしまえます。耳では、それができません。声が進む速さでしか、話は進まない。次の角を曲がるまで、何が待っているか分からないのです。

泉鏡花の『高野聖』は、旅の僧が山中の一軒家に泊まった夜の話です。聴いていくと、声がゆっくりになるところで、こちらの息もゆっくりになります。山道の湿った空気や、ひとつ家の女の人の気配が、耳の奥で少しずつ近づいてきます。何が怖いのかを、はっきりとは言わない話です。

岡本綺堂の怪談も、よく聴きます。人が集まって、一人ずつ怖い話を語っていくという形の話が多く、朗読で聴くと、自分もその座敷の隅に座っているような気がしてきます。障子の向こうで、誰かが足を止める。そういう音のない場面ほど、声が変わる一瞬がくるのです。

いつか会で、怪談を朗読で聴く回ができたらと思っています。夏の夜、雨戸を閉めて。

寄稿 夏の終わりの映画

(ロク)

夏休みは四十日ほどある。そのうち最後の三日は、それまでの三十七日と重さが違う。

夏の終わりの映画とは、その最後の三日の映画のことだ。

『菊次郎の夏』。北野武監督。夏休みに、母親に会いに行く少年と、ろくに働かない中年の男の、あてのない旅。道中は、ほとんどがくだらない遊びだ。画面の端に、いつも青い空がある。その空が、旅の終わりに近づくにつれて、少しずつ遠く見えてくる。

『スタンド・バイ・ミー』。四人の少年が、線路を歩いて一泊の旅に出る。要するに、たった二日の話だ。だが、最後の数分で、その二日がどれだけ遠い昔になったかが分かる。組み立ては単純で、骨組みが見えているのに効く。

どちらも、観終えたあとに、夏が一つ終わる。まだ七月なら、観るのは早い。八月の最後の週まで、取っておくこと。

夏の選書

『TARI TARI』（テレビアニメ）

選んだ人：風。海の近くの高校で、合唱をやりたい子たちが集まる話で、最後の数話の、歌の場面で、自分は何回観ても喉がつかまるんです。

『海が走るエンドロール』たらちねジョン（漫画）

選んだ人：草餅。夫を亡くした女の人々が、映画を撮りたいと思いはじめる話。夜

の海の見開きで、うちは一回、本を閉じた。

『ロング・バケーション』（テレビドラマ）

選んだ人：はるまき。夏休みじゃなくて、人生のちょっと長いお休みの話です。
家族が寝たあと、一話ずつ。

サカナクション『834.194』（音楽）

選んだ人：オト。二枚組。一枚目は街の夜、二枚目は、もっと遠くの夜。帰り道に、二枚目から。

次の会

- 第39回（七月） テーマ「おなかを空かせたい」。映画『南極料理人』。ぬかの初めての進行です。記録はロク。
- 第40回（八月） テーマ「熱くなりたい」。映画館で上映が続いているアニメ映画を、それぞれ観てきてから話します。進行は凧、記録はやぎ。

しずく通信 第13号 2023年7月 編集：はるまき

しずく通信 第13号

2023年7月 発行

編集 はるまき

発行 一滴舎

この冊子は会員向けに発行したものです。